

令和7年度第1回一関市地域福祉計画推進会議 会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関市地域福祉計画推進会議
  - 2 開催日時 令和7年6月24日（火）午後1時30分から午後3時30分まで
  - 3 開催場所 一関市総合福祉センター 3階大会議室
  - 4 出席者
    - (1) 委員 佐藤哲郎委員（会長）、豊間根正明委員、菅原純子委員、小岩正樹委員、千葉ゆかり委員、菊地ワカ子委員、長田昌委員、高橋利典委員、鈴木一憲委員、菅原正幸委員
    - ※欠席者 菊地光伸委員、佐々木裕子委員、皆川富雄委員、葛西信昭委員、渡部俊幸委員、佐藤克朗委員、及川たい子委員、木村静恵委員、伊藤智委員、千葉真美子委員
    - (2) 事務局 山形雅彦福祉部長、伊東裕芳長寿社会課長、菅原早苗長寿社会課福祉企画係長
    - (3) その他 熊谷美鈴健康づくり課健康増進係長、小野寺愛健康づくり課主任保健師、千葉富美江健康づくり課主任保健師
- 【一関市社会福祉協議会】※設置要綱第7の規定による  
中村岳史地域福祉課長、熊谷拓地域福祉課長補佐

5 報告

- (1) 民生委員調査結果について
- (2) 第3期地域福祉計画の策定について
- (3) 一関市におけるひきこもり支援について（プラットフォーム設置について）
- (4) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 挨拶

(1) 佐藤哲郎会長

仕事や地域の暮らしの中でもそれぞれ地域性があり、異なっている。次期計画策定のため、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をお願いします。後ほど班に分け、グループワークの時間を設けるので活発にご意見をお願いします。

(2) 山形雅彦福祉部長

日頃より、市の福祉行政の推進に、格別のご理解とご協力を賜り、御礼を申し上げます。

さて、地域社会を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行、地域での交流機会の減少など、社会環境の変化に伴い、人と人とのつながりの希薄化が進み、お互いの支え合いや助け合いといった機能が弱くなってきている。

加えて、認知症高齢者の増加や8050問題、ヤングケアラーや孤独死、虐待、ひきこもりといった見守りの必要な人の増加など、様々な分野の課題が絡み合って「複雑化」し、また、個人や世帯において複数の分野にまたがる課題を抱えるなど「複合化」しており、大きな社会問題となっている。

誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するためには、性別、年齢や障がいの有無などの属性に関わらず、従来の福祉制度の狭間で支援が届きにくい方も含めた全ての人を包括的に支援する体制を構築し、支え合う体制の実現と維持のため、行政はもとより、市民、福祉事業者や企業及び社会福祉協議会などの関係機関がそれぞれの立場で、相互に協力しながら計画的に進めていくことが必要である。

現在の一関市地域福祉計画は令和7年度が計画期間の最終年度となっていることから、市では今年度、保健福祉分野の施策を横断的、体系的に推進するため、様々な分野の方々から意見を取り入れながら、第3期地域福祉計画の策定を進めていく。

多岐にわたる社会的課題にどのように対応するかを共にお考えいただき、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をお願いします。

## 9 審議内容

### (1) 民生委員調査結果について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

なお、市から調査の分析を依頼された団体から、次のとおり分析結果の所見を述べた。

会 長 資料No.1の評価について、補足して説明する。

クロス集計分析結果について、大まかに把握するため西地域と東地域の2つに分け、13の設問に対する傾向の分析を行っている。

委 員 民生委員の意見の傾向を把握する貴重なアンケートである。意見や質問に対する対応をしているのか。特に民生委員の仕事について、支援等についてどう対応するのか。個人情報保護法に関わるものについて、個人情報を得られないために困っていることがあるが、どのように対応するのか。

事務局 民生委員の業務の参考用として、相談支援活動の事例集の提供や民生委員の情報交換会を行い、先輩達の体験等、対応についての情報収集の場を設けている。民生委員活動への支援の仕方についても今後検討していく。個人情報に関しては、個人情報保護法の関係で課税情報等の個人情報を提供することは出来

ないため、福祉乗車券の申請のお手伝いを行っている民生委員の方々には負担をかけているが、個人情報について提供できない旨を説明し、了承して頂いている。

避難行動要支援者名簿の提供については、平常時は個人情報の提供に同意された方のみ民生委員等の支援者に提供している。市では、基礎情報として要支援者情報を把握している。

委員 福祉乗車券について、本人の同意書があれば民生委員が代行することは可能か。

事務局 民生委員に非課税が該当条件である福祉乗車券の該当者リストを提供することが出来ない。本人同意が無ければ、課税情報を把握することは出来ないため、民生委員には、声かけを依頼している。

委員 本人があらかじめ、市に連絡する等の方法によってできるよう、住人や民生委員が動きやすいシステムを考えていくことが必要だと感じている。命に関する情報について、事前に把握できれば災害時の対応について民生委員の役に立つものになると感じる。2地区（東西）に分けてクロスチェック分析しているが、それぞれ地域の傾向を生かし、地域福祉計画に盛り込めたら良い。

## (2) 第3期地域福祉計画の策定について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 高校生ワークショップについて、福祉関係の学校に偏っており、参加が少ないとの報告があったが、進学校においても福祉体験等は医学系や看護系の進学をする動機づけになり、進路指導の先生に働きかけてみたらどうか。

事務局 これからの対応となる。今年度は、一関市社会福祉協議会のボランティア事業との共催になり、募集増員を図っている。

委員 福祉の動機付けになった場合、地元に戻って福祉に従事するきっかけ等につながる可能性もある。興味のある方だけでなく参加者が広がる対策をお願いしたい。まちづくりにまでつながっていくと思われる。

## (3) 一関市におけるひきこもり支援について（プラットフォーム設置について）

健康づくり課から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

なお、一関市地域福祉計画推進会議を一関市プラットフォームと位置づける案について、異議なく了承された。

委員 精神科医の存在が見受けられないが、保健師と連携をとっているか。

ひきこもり支援について、行政的支援だけでなく精神科医による医学的サポートが必要だと思われる。プラットフォームをこの会議に位置づけることは良

いがメンバーを考えるべきである。保健師等ある程度専門的な評価をできる方が入るのが良いのではないか。

事務局 ひきこもり支援について、医療の連携は重要なものと認識している。一関保健所との連携は個別支援やひきこもり支援で連携をとっている。医療との連携は、個別支援で連携している。メンバーについては、これからの協議で検討する。

委員 資料の中で、医療の説明を記載した方がわかりやすいと思われる。

(4) その他

地域包括ケアの具現化及び取組の推進に向けて多様な主体が協働していく上で必要なコトやモノについてグループワークを行った。

10 担当課 福祉部長寿社会課